

キーワード

学習意欲の向上

標 題

学び合いを通して つながる・つなげる授業づくり

①学校の概要（平成25年5月1日現在）

・児童生徒数 971名 ・学級数 34学級 ・教職員数 45名

②取組を始めた経緯

児童のコミュニケーション能力、表現する力に課題がある。また、自己肯定感や学習意欲、学力が低い児童、困り感を抱えている児童が見られた。これらのことから、どの子も見通しをもって授業に取り組む、特別支援教育の視点からの授業づくり、学び合いの授業づくりに取り組むことにした。

③取組の実施体制

研究主任を中心に研究部を組織し、研究の進め方や学年や教科の調整をする。研究部での意見を研究推進委員会で検討を加えながら、研修・研究を進めていく。授業づくりだけでなく、家庭との連携を中心に図っていく「すくすく推進部」を分掌に位置付け、効果的に家庭・地域との連携を図っていく。

④学力向上に向けた具体的な取組

- 1 環境づくり（教室掲示）
 - 刺激が少ないように画用紙の色にも配慮している。
 - 1～6年のすべての教室において、同じ掲示物は同じ場所に掲示する。（学年目標、発表の仕方等）
 - 教員が教室をまわり、よいところを見付け合い、研修で情報交換する。
 - 夏休みの研修で特別支援のワークショップを行い、使ってよかった道具や表を紹介し合い、互いに取り入れることができるようにする。
- 2 朝読書、朝学習
 - 週に1回、8：25～35の10分間実施している。
 - 朝学習は、週に1回（1・6年は金曜、2・4年は水曜、3・5年は木曜）実施している。2人体制（担任＋校長、教頭など）で、指導にあたる。
- 3 基本的ルール
 - 高島スタイル（授業の準備、発表の仕方等）
 - ・ 学期の始めに子どもにプレゼンテーションで説明する。
 - ・ めあて（子どもがつくる）、まとめのある授業。
 - ・ めあてづくりまでのビデオをつくり、研修で見る。
 - ・ 高島スタイルで学期に1回は、全員授業公開する。
 - 学び合い
 - ・ 1時間に一回ペア学習やグループ学習を取り入れる。
 - ・ ノートやプリントを二人の間におく、かいてあるところを指さす等のルールづくり。
 - ・ 机間指導を大切にし、どのグループがどんな考えをもっているかつかみ、意図的指名につなげる。
 - ・ 違いを見付けたりアドバイスをしたりして練り上げを行えるようにする。
- 4 放課後子ども教室
 - 3年生と4年生の約半数が参加し、年間60回くらい実施する。
 - 指導者は地域の方、保護者、地域安全コーディネーターなどの方を中心に、学校からも4、5人参加する。
 - 内容は、今習っている学習や今までつまづいていたところ。
 - 夏休みも同じように、前半と後半に実施する。
- 5 すくすくチェック
 - 連絡ノート
 - ・ 宿題の出し方、自主勉強の仕方について研修している。
 - ・ 自主学習紹介コーナーを設け、意欲付けを行っている。
 - すくすく週間の取組
 - ・ 中学校区でメディアコントロールを実施している。
- 6 ポイント
 - 校内研修で共通理解を図り、教員が同じ歩調で取り組んでいる。
 - 保護者、地域をまきこんで様々な取組をしている。落ち着いた環境で学習できるようにしている。

⑤取組の成果と課題

○成果

- ・学習規律や子どものすがたを、教師が意識し、継続的に取り組めてきた。
- ・子どもが考えをもつことができる授業の工夫（具体物・ワークシート等）がみられるようになった。
- ・自信をもって自分の考えを広げたり深めたりできる子どもが増えてきた。
- ・家庭学習について保護者の意識ができてきている。

○課題

- ・やや取り組みが形骸化してきている。

⑥取組の継続・発展の要因

○年度初めには取り組みについての研修を実施し、高島スタイルへの理解を図ることが、円滑な学級開きにつながることを共通理解する。

○児童の変化が実感できたことで教師の意識が変わってきた。

○メディアコントロールなど中学校区でそろって取り組めていることから、保護者の認識が深まった。

⑦管理職・中核教員等のアクション

○研究主任を中心にした研究部で企画したことやすく推進部で計画したことについて、学年主任を中心に足並みをそろえて取り組む。

○組織的に取り組めるように校務分掌に位置付け、取り組み等の状況については教務部も含めて確認し、全職員でかかわるようにしていく。

⑧資料・写真等

